



川の 上流 から流した四角いレンガが、丸くなるって本当なの

本当に丸くなってしまふ

1956年の台風のときに、荒川の 上流 からレンガを流して、レンガの流され方と、レンガの形や大きさが、変わっていくようすを実験をしました。

レンガが 上流 から、下流へと流れていく間に、レンガは角がとれて丸くなり、だんだん小さくなっていくことがわかりました。

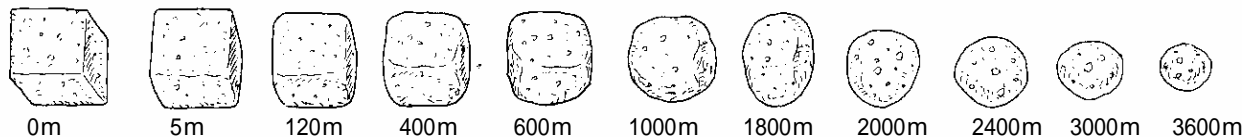
レンガを流してから、600メートルぐらいになると、だいぶ角がとれてきますが、まだ、四角っぽい形をしています。1000メートルぐらいになると、レンガは丸くなりますが、大きさは、あまり小さくなっていません。

3000メートルも流れてくると、形はすっかり丸くなり、大きさも、初めの大きさの4分の1ぐらいになります。

川の水のはたらきがよくわかる

レンガが流されていくにつれて、大きさや形が変わっていくことから、川原の石が 上流 から運ばれてくるときに、初めは角ばっていた石も、流されていくうちに、丸く小さくなっていくようすがよくわかります。(監修・国司・真)

上流から流したレンガの変わり方



(数値は、レンガが流されたきよりを表す。)

